

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|----|
| 事業所番号 | 4571800269 | | |
| 法人名 | 有限会社 ウエハラ | | |
| 事業所名 | グループホーム幸ちゃんの家2号館 | ユニット名 | 東館 |
| 所在地 | 宮崎県小林市野尻町三ヶ野山2157-9番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年11月30日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaiyokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&jigyosyoCd=4571800269-00&PrefCd=45&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成24年12月18日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | 東館 実践状況 | 外部評価 | |
|--------------------|--|------|--|------|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | | 地域の一員として、地元の人との交流に努めるという理念を掲げ、スタッフは理念を共有しながら、地域に出向くことにより、実践に取り組んでいる。 | | |
| 2 | (2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所 자체が地域の一員として日常的に交流している | | 法人内の委員会(ボランティアコーディネーター)を通して、地域と交流している。10月は民生委員、幼稚園園児と共に改善センターにて、幸リンピック(運動会)を行った。11月は保育園児の慰問、12月はそば打ちを予定している。 | | |
| 3 | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | | 地域包括支援センター主催の徘徊模擬訓練に参加し、訓練の参加者に、認知症ケアについての理解を深めてもらった。 | | |
| 4 | (3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | | 運営推進会議の中で、平成23年10月に婦人会・老人会の見学会をしたらどうかとの提案があり、実施した。また、地域の方々のボランティアを呼んだらという意見があり、料理教室を開催して頂いた。 | | |
| 5 | (4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | | 運営推進会議に、市担当者、地域包括支援センター職員に参加して頂き、入居者の状況、活動内容等の報告を行っており、指導、助言を頂き、日々のケアに活かしている。 | | |
| 6 | (5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | | 法人内研修や会議等で、身体拘束について勉強会や話し合いを行い、身体拘束のないケアを実践している。 | | |
| 7 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | | 法人研修で、虐待防止についての勉強会を行い、理解し合い、防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 東館 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|----|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 前年度の研修にて、成年後見の勉強会を行った。また、安心サポートなど利用されている方もおり、今後も勉強等が必要である。 | | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分な説明を行っている。 | | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議で、活発な意見交換がなされている。 | | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 会議の時、個別に話を聞くなどしている。 | | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている | スタッフとは、年に2回、個別に面談の機会を設けること、管理者とは月1回の管理者会議にて、確認するよう努力している。 | | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人研修の出席や提出レポートに必ず目を通し、スタッフ一人ひとりの思いを把握するよう努力している。 | | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | びっきょん会(野尻町内のグループホーム連絡会)を通じ、2カ月に1度、参加するよう声かけを行っている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 東館 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|----|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 法人内のショートステイからの入所がほとんどである為、グループホーム職員がショートステイに出向き、不安なこと、困っていることなどを本人・御家族から聞けるようにし、その情報を職員間で共有できるようにしている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族とも同じように、ショートステイ相談員を通じ、ニーズの把握に努めている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 法人内ショートステイがある為、本当に在宅困難な方への支援が出来ている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 個々にあったレクリエーション活動(切り絵・そろばん・料理・野菜作り)など、趣味や希望に応じた活動が出来るように計画している。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時に生活の様子を報告したり、電話や定期的なお便りで状態を報告している。夕涼み会、敬老会、忘年会等で、一緒に楽しい時間を過ごして頂いている。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みのお店の買い物やいきつけの美容室、墓参り、又は個別で行きたい場所に出掛ける機会を設けている。面会時は、ゆっくりつろいで頂ける雰囲気づくりを行っている。 | | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係を把握し、テーブル、ソファの配置や座席に配慮し、落ち着いて過ごして頂けるよう支援をしている。 | | | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | 東館 | 外部評価 | |
|--------------------------------------|---|--|----|------|-------------------|
| | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 年賀状や挨拶状、運営推進会議の出席依頼などを行っている。また、入院・退所や移動された場合も面会を行い、継続して関わりを持つようにしている。 | | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の意向や家族の思いを聞き、把握に努めている。また、表情から本人本位に検討している。 | | | |
| 24 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族から生活歴や生活環境を伺い、把握に努めている。毎週の会議にて、情報の共有に努めている。 | | | |
| 25 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの生活リズムを把握し、精神面の状態なども記録して、把握に努めている。 | | | |
| 26 (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族から思いや意向を聞いている。また、職員は会議や全体会議等で話し合いを行っており、本人の状況に応じて随時の見直しを行い、現状に即した計画を作成している。 | | | |
| 27 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 本人の意向や家族の思いを聞き、把握に努めている。また、表情から本人本位に検討している。言動や行動、日々の様子や気づきを記入し、職員間で情報を共有し、見直しにも活かしている。 | | | |
| 28 | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 電話での家族との会話を希望された場合でも、家族に相談しながら可能な限り、対応に努めている。また、リフト車の提供も行っている。 | | | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | 東館 | 外部評価 | |
|----------|---|--|----|------|-------------------|
| | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の商店や温泉、観光地などに出掛けたり、地域住民のボランティアの受け入れなどを行っている。 | | | |
| 30 (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族が望むかかりつけ医を支援しているが、殆どの方が施設の協力病院である。 | | | |
| 31 | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ホーム看護師に日々の状態の報告を行い、相談や指示を受けたり、受診を行ったりしている。 | | | |
| 32 | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院の方へ面会に行き、看護師に状態を聞いたりして情報の交換を行っている。 | | | |
| 33 (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に話をしているまた、状態の変化に応じて話し合い、意思確認を行い、職員間でも情報の共有を行っている。 | | | |
| 34 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています | 法人研修で緊急時対応の訓練を行っている。7月に法人研修にて心肺蘇生法、ADLの使用法を実施した。また、会議等でも対応の仕方を話し合っている。 | | | |
| 35 (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎月の防災訓練、年1回の総合訓練を行っている。また、市の防災無線等を通じて地域住民に呼びかけるようお願いした。 | | | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | 東館 | 外部評価 | |
|----------------------------------|---|---|----|------|-------------------|
| | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員は一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応に努めている。 | | | |
| 37 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 寄り添いながら言葉かけを行い、日頃からコミュニケーションを図り、信頼関係づくりに努めている。 | | | |
| 38 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の状態や意思に沿った支援が出来るよう、出来る限り、希望に沿った支援を行っている。 | | | |
| 39 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 定期的に理容の来所がある。また、本人の希望で、行きつけの美容室を利用している。 | | | |
| 40 | (15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | イベント時、一緒に食事作りや片付けを行っている。出来るだけ自力で食べられるように支援している。 | | | |
| 41 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理栄養士や看護師と連携を図り、一人ひとりの状態を把握して状態に合った食事を提供している。 | | | |
| 42 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 利用者に応じて、歯ブラシや洗浄剤、口腔ケアのウエットティッシュを使用している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 東館 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|----|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、オムツを使用している方もトイレ誘導を行い、排泄の支援を行っている。また、排泄委員会の活動を通して、オムツの使用を減らすよう支援を行っている。 | | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分摂取、食べ物やおやつを工夫したり、運動の働きかけを行っている。 | | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴の温度、時間を本人の希望を聞いている。また、ゆず湯など行い、季節を味わえるように支援している。要望に応じ、シャワー浴や清拭等の対応を行っている。 | | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調や希望を考慮し、ゆっくり休憩出来るように支援している。また、使い慣れた枕や布団などの持ち込みもお願いしている。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ファイルに処方箋をつづり、目的や用法など確認、把握出来るようにしている。また、お薬手帳ですぐに確認がとれるようにしている。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 野菜作りや花の世話、干し柿作りや団子作りなど、経験を活かせるよう支援を行っている。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望を聞いて外出したり、自宅帰省が出来るように努めている。また、家族にリフト車の貸出も行っている。十人乗りのリフト車で外出がスムーズになり、遠出も行うことが出来ている。 | | | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | 東館 実践状況 | 外部評価 | |
|------------|--|--|------------|------|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個人によっては買い物の際、自分で支払いが出来るように支援している。 | | | |
| 51 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望、状態に応じて、家族へ電話をする支援をしている。 | | | |
| 52 (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節や行事に応じて設営を行い、季節を感じて頂けるようにしている(季節の花や植物、飾り等)。 | | | |
| 53 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアにソファ・テーブルを配置しており、玄関先にはベンチを設置し、季節の花を置き、ゆっくりくつろいで頂けるようにしている。 | | | |
| 54 (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みのタンスやTVを使用して頂いたり、家族の写真などを飾ったりしており、居心地良く過ごせるよう工夫している。 | | | |
| 55 | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレや居室が分かるように表札をつけたり、ベットでの手すりの必要な方に手すりをつけたりして、安心して生活出来るよう支援している。 | | | |